

中国 中日友好大学生訪中団

学生氏名	赤星 宙さん
所属学部	教育学部 児童教育学科 教育コース
参加学年	3年次
滞在期間	2025年8月24日～30日
滞在方法	ホテル



訪中団報告書

私はこれまで、正直なところ、ニュースや報道を通じて中国に対して否定的なイメージを持っていた。しかし、それは自らの体験に基づいたものではなく、単なる先入観にすぎなかった。そこで今回、訪中団として実際に中国を訪れ、中国の文化や人々と直接交流することで、自分の目で確かめたいと思い参加した。結果として、当初抱いていた印象は大きく変わり、中国の魅力を多方面から知ることができ、心から好きになった国となった。

まず、中国の人々と交流する中で、その温かさと親しみやすさを強く感じた。日本語を学んでいる中国の学生と文化について教え合い、両国の共通点や相違点を理解することができたことは、互いの距離を縮める貴重な機会となった。また、夜市やショッピングモールを訪れた際には、言葉が通じない日本人だと分かると、店員の方々は翻訳アプリを使って丁寧に説明してくれたり、少しおまけをしてくれたり、親切に対応してくれた。さらに周囲のお客さんまで「これがおすすめだよ」と声をかけてくれるなど、中国人の持つサービス精神や人情の厚さに感銘を受けた。訪問時期が抗日戦争 80 周年記念式典の直前であったにもかかわらず、日本人に対して嫌な態度を示す人はおらず、むしろ温かく迎えてくれたことも心に残った。以前の私は、中国に対して一部の否定的な報道だけを見て「そういう国だ」と決めつけていたが、その考えがいかに浅はかであったかを痛感した瞬間であった。

また、交流だけでなく、中国の歴史や社会の一端にも触れることができた。たとえば、中国には日本の古墳のような遺跡があり、それが 5000 年前に築かれたものであると知ったとき、中国の歴史の壮大さと深さに圧倒された。さらに、交通事情の違いも興味深かった。道路には必ず二輪車専用レーンがあり、自転車のシェアサービスは非常に安価で、どこでも利用・返却が可能であった。そこからは二輪車の普及度や利便性への工夫がうかがえ、中国社会の柔軟さや合理性を感じ取ることができた。

今回の訪問を通して、短期間ながら中国が急速に発展している背景についても考えるきっかけを得た。その発展は単に過去を切り捨てるのではなく、伝統を残しつつ新しい変化に適応していく姿勢の上に成り立っていることを学んだ。歴史と現代、伝統と革新を両立させようとする姿は、今後の日本社会にとっても大きな示唆を与えてくれるものである。

このように、訪中国としての経験は、私の中国観を大きく変えた。かつての否定的な先入観は消え去り、中国の人々の温かさ、歴史の壮大さ、そして社会の柔軟さに触れることで、心から魅力を感じる国となった。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に深く感謝するとともに、今後も再び中国を訪れ、さらなる交流を重ねたいと強く願っている。

